

NEW

革新の能力 4ton アーム式リフト!
常識を覆す**強靱** フレームボディ!!

イーグルアドバンスリフト

EAGLE
dvance
ALY-F40A

4TON
SPEC
26EC



◀こちらの QR コードより
動画をご覧ください。
※QR コードは (株) デンソーウェブの登録商標です。

日本・米国・欧州・他
特許取得済

BANZAI NEWS

2022
Summer
323

特集
BANZAI NEWS

防げる事故を防ぐことで
お客様も従業員も不幸にならないお店作り



BANZAI 株式会社 バンザイ

<https://www.banzai.co.jp>

本 社
東京都港区芝2-31-19
TEL 03-3769-6880
E-mail: eigyo@banzai.co.jp

札幌支店
札幌市西区24軒1条7-3-10
TEL 011-621-4171

仙台支店
仙台市宮城野区福室2-8-21
TEL 022-258-0221

関東支店
埼玉県北本市朝日4-553
TEL 048-590-3700

営業部
東京都港区芝2-31-19
TEL 03-3769-6881

海外販売部
東京都港区芝2-31-19
TEL 03-3769-6894

東京支店
東京都港区芝2-31-19
TEL 03-3769-6840

名古屋支店
名古屋市千種区青柳町6-26
TEL 052-732-2600

大阪支店
大阪市長田東3-3-11
TEL 06-6744-1041

広島支店
広島市西区南観音2-7-10
TEL 082-233-3201

福岡支店
福岡市博多区那珂5-3-15
TEL 092-411-1261

- 営業所 旭川・青森・秋田・盛岡
郡山・山形・新潟・長野
前橋・宇都宮・水戸・埼玉
千葉・横浜・静岡・多摩
北陸・三重・京都・神戸
高松
- 出張所 帯広・函館・富山・松山
岡山・山口・山陰・長崎
大分・熊本
- 販売会社 バンザイ南九州販売(株)
バンザイ沖縄販売(株)



ISO9001-ISO14001
自動車整備用部品検査用機器の設計開発販売及びサービス
バンザイでは「顧客第一主義」を信条に
お客様とのきずなを大切に、
お客様満足度の向上を図っています。



日本海に架かる道 角島大橋 山口県下関市

山口県の県道276号線。コバルトブルーの海を渡り角島へとつづく全長1760メートルの角島大橋は、2000年の開通以来、カーメーカーのCMなどで評判となり、絶景ポイントとして多くの人が訪れます。左へ大きくカーブしているのは途中の鳩島の景観を守るためだそうです。

★歳時記

- 7月 7日 七夕
- 18日 海の日
- 8月 6日 広島平和記念日
- 7日 立秋
- 9日 長崎原爆の日
- 11日 山の日
- 15日 終戦記念日
- 9月 19日 敬老の日
- 23日 秋分の日



●目次

★特集

- 「SMART」サービスショップ作りのために必要なことは? ①
- 【第2回】防げる事故を防ぐことで
お客様も従業員も不幸にならないお店作り

★モデルショップ訪問

- 【南関東日野自動車株式会社 足立支店】 ⑥
- 進化する大型車サービスのニーズに
最新鋭の設備・環境で未来対応を実現

- ★<EPOCH>トラックショー2022 ⑧
- バンザイブースへご来場ありがとうございました!

- ★ショールーム ⑩

- ★MSC感動夢工場が設立総会を開催 ⑭

- ★ロータリー ⑯

- ★BANZAIガイド ⑰

特集

BANZAI NEWS

「SMART」サービスショップ作りのために必要なことは?
(SMART=Sustainable mobility actions realize tomorrow. (持続可能なモビリティアクションで未来を実現します。))

第2回 防げる事故を防ぐことで
お客様も従業員も不幸にならないお店作り



ADAS (先進運転支援システム) は過去10年間で急速に進化・普及し、その勢いは留まる所を知りません。しかしながら、どれほど安全技術が進化・普及しても、肝心の車両に不具合が発生すれば、せっかくの安全技術がかえって危険なものになりかねません。

ですが、たとえお客様の愛車をしっかりメンテナンスできていたとしても、自社の車両や整備機器のメンテナンスをおろそかにし、従業員の怪我や死亡事故を招いては、元も子もなくなります。

当連載「『SMART』サービスショップ作りのために必要なことは?」、2回目の今回は、絶対に起こしてはならない、そして防げる事故から、お客様と従業員を守ることができるお店作り、その方法について考えたいと思います。

**車両に不具合があれば
ADASはかえって危険に。
「トータルエイミング」の
実践でお客様の安全確保を!**

当時の運輸省自動車交通局技術安全部を事務局としてASV(先進安全自動車)推進計画がスタートしたのは1991年。その後1999年に、スバル・レガシイランカスターに設定された「ADA」(アクティブ・ドライビング・アシスト)などを皮切りとして実用化され始めたものの、黎明期のADASは非常に高額で、また設定される車種も高級車が中心だったため、普及はなかなか進みませんでした。

しかし、スバルの「アイサイト(ver.2)」が2010年にレガシィへ、ダイハツの「スマートアシスト」が2012年にムーヴへ、いずれも低価格で設定され、やがて様々な車種に展開されるようになると、急速に普及が進み、その動きが他の自動車メーカーにも波及していきます。

さらに政府は、「衝突被害軽減ブレーキ」の装

着車を「サポカー」、「歩行者対応衝突被害軽減ブレーキ」「ペダル踏み間違い時加速抑制装置」「車線逸脱警報(レーンキープアシストなどを含む)」「先進ライト(=AFS、ハイビームサポートシステム、アダプティブハイビームシステムのいずれか)」を装着した車両を「サポカーSワイド」と呼ぶなどの「安全運転サポート車」普及啓発活動を、2017年より開始しました。

そして2021年11月より、国産新型車への衝突被害軽減ブレーキ装着を義務化。順次対象車種を拡大する予定となっています。

また、これらの動きに呼応する形で、政府は2020年4月より、従来の「分解整備」にレベル2以下のADASおよびレベル3以上の自動運転システムに対する点検整備(=「電子制御装置整備」)を追加した「特定整備認証制度」を開始。2021年10月には12ヵ月点検時の点検項目に、「OBD点検」と呼ばれる「OBD(車載式故障診断装置)の診断の結果」を追加しました。

2024年10月からは、保安基準に適合しないおそ

れのある装置の不具合(=「特定DTC」)の有無を「法定スキャンツール」で検出し、車検の合否判定を行う「OBD検査」も導入されます。

このように、今やADASはごく当たり前の装備となっており、またその装着も点検整備も法令で義務付けられるようになりました。

ですが、これらの法令は、あくまで最低限の安全性を担保しているに過ぎません。「電子制御装置整備」の特定整備認証を取得したり、「OBD点検」や今後の「OBD検査」に対応したりするのは無論必須ですが、それらは繰り返しますがあくまで最低限すべきことに過ぎないのです。

なぜなら、レーダーやカメラなどのセンサーが正しい位置・角度に装着・調整され、スキャンツールから故障コードが検出されなかったとしても、ADASが正常に作動するとは限らないからです。具体的には、どういうケースが考えられるのでしょうか?

まずホイールアライメントが、例えば後輪が左右とも右側を向いた状態に狂っていれば、直進するにはステアリングを左に切らなければなりません。で

すがその状態ではセンサーの検知範囲も左向きとなるため、正面に前走車がいっても検知できず、ACC(アダプティブクルーズコントロール)や衝突被害軽減ブレーキなどが作動せず、追突する可能性があります。また、左側に前走車がいる場合はそれを真正面にいるものと誤認し、急減速や操舵アシストなどの回避行動を自動的に行うことで、後続車からの追突を招いたり、側面の車両や壁に激突したりすることも考えられます。

さらに、事故などでボディーアライメントが狂い、サスペンションメンバーやアーム類の歪みあるいは取り付け位置のずれが生じていれば、必然的にホイールアライメントを規定値の範囲内に収められず、同様の不具合を招く可能性があります。

それどころか、タイヤの空気圧が極端にバラついていても、クルマは真っ直ぐ走りません。また、センサーの照射・認識範囲の外装を損傷し、またその後不適切なパテ埋めや塗装、コーティングなどを行った場合はもちろん、単純に汚れが多く付着している場合も、ADASは正常に作動しなくなる場合があります。

**外観検査
故障診断**



・ウィンドシールドガラスの汚れなどは清掃
・故障コードはないか確認

ボディー計測



3次元ボディー計測で車体中心線のずれはないか確認

タイヤ空気圧調整



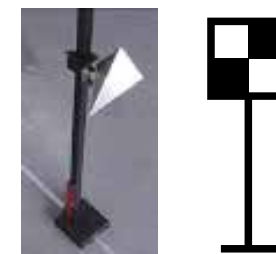
タイヤ空気圧を規定値に調整

ホイールアライメント計測



・アライメントテスターでスラストラインのずれはないか確認
・基準値に入っているか確認

エイミング作業



専用ツールとスキャンツールで作業

試運転故障診断



・故障コードはないか確認
・一般道、高速道路で各機能が働くかどうかの確認

バンザイが提唱する「トータルエイミング」の流れ

※流れは事例であり、各カーメーカーの指定する手順にのっとり、作業を行ってください。

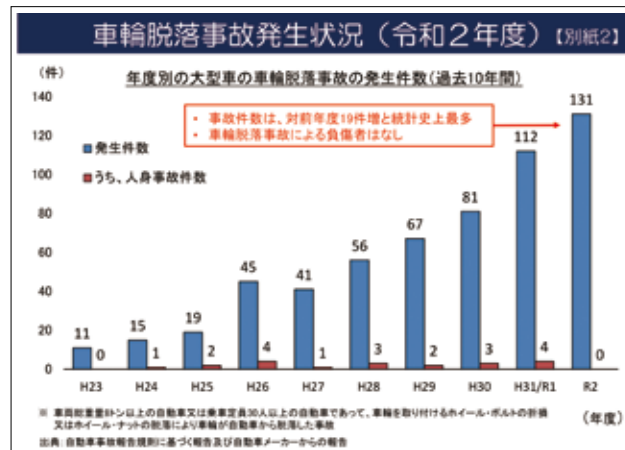
つまり、車検以上の高レベルな点検整備だけでなく、ごく簡単な日常点検の中にさえ、怠ればADASの不具合を招き、逆にしっかり行えば未然に防げる不具合があるのです。

ADASはそのセンサーだけを点検整備すれば正常に作動するものではありません。洗車などによる汚れの除去から始まり、作業前のスキャンツールを用いた故障診断、その後のボディーアライメント・タイヤ空気圧・ホイールアライメントの測定・調整、ADAS用センサーのエイミング、そして再度の故障診断と試運転を行い、ADASが正常に作動することを確認できて初めて、お客様に納車し、安心してお使いいただけると言っても過言ではないのです。

バンザイでは、これら一連の作業を確実に実施することでお客様の安全を担保する「トータルエイミング」を、ADASが普及期に入って間もない頃よりいち早く提唱しています。そして「トータルエイミング」に欠かせない、高精度な三次元ボディー計測装置や車体修正機、ホイールアライメントテスター、スキャンツール、またエイミングの作業効率を大幅に高める位置出しツールやターゲットスタンドなどを幅広く取り扱っております。詳しくは当社スタッフへお気軽にご相談下さい。



車輪が「お・ち・な・い」ための点検整備を呼びかける啓発チラシ。裏面には締め付け方式の違いや、ホイールボルト・ナットの潤滑・清掃方法なども記載されている(出典：日本自動車工業会)



大型車の脱輪事故は年々増加傾向にある(出典：国土交通省「令和2年度大型車の車輪脱落事故発生状況」)

自社所有車両・整備機器の取扱不良や点検不履行は「医者の不養生」。確実な実施で従業員の安全確保を!

さて、お客様の愛車をしっかり点検整備できている、自社で所有する車両や整備機器の点検整備が定期的かつ確実にに行われていなければ、従業員の安全を守ることはできません。近年はこのような、事業用の車両や機器類の不十分な点検整備を原因とした重大事故が増加傾向にあり、大きな社会問題となっています。

中でも大型車の車輪脱落事故は、身近で発生しやすく危険性が高いことから、特に注目を集めています。

国土交通省によれば、大型車の脱輪事故は2015年度以降毎年増加しており、2020年度には2019年度より19件多い131件発生し、過去最高を更新しました。また、統計データの詳細から、事故を起こした車両は全てトラックで、時期は冬期、場所は東北地方、作業実施者・内容別では大

型車ユーザー自ら冬用タイヤへ交換した後、部位別では左後輪で多く発生している傾向が明らかになっています。

このような状況を受け、国土交通省と日本自動車工業会の大型4社は2020年以降、車輪脱落の原因となりやすいタイヤ・ホイールの履き替えが多く発生する秋から冬にかけて、「大型車の車輪脱落事故防止キャンペーン」を実施しています。また2021年3月には「自動車の点検及び整備に関する手引き」が改正され、2022年2月には国土交通省自動車局整備課を事務局として「大型車の車輪脱落事故防止対策に係る調査・分析検討会」が設置されました。

これらの取り組みを通じて訴求されている具体的な事故防止策は主に「お・ち・な・い」、日常点検の確実な実施、特にISO方式の車両で重要となるホイールボルト・ナットなどの清掃・潤滑、トルクレンチを用いた増し締め、ホイールナットインジケーターなどを用いた緩み点検です。

バンザイでは、大型車の車輪脱落事故を安全かつ効率良く確実に防ぐためのツール・機器類を豊富に取り揃えておりますので、ぜひご活用下さい。

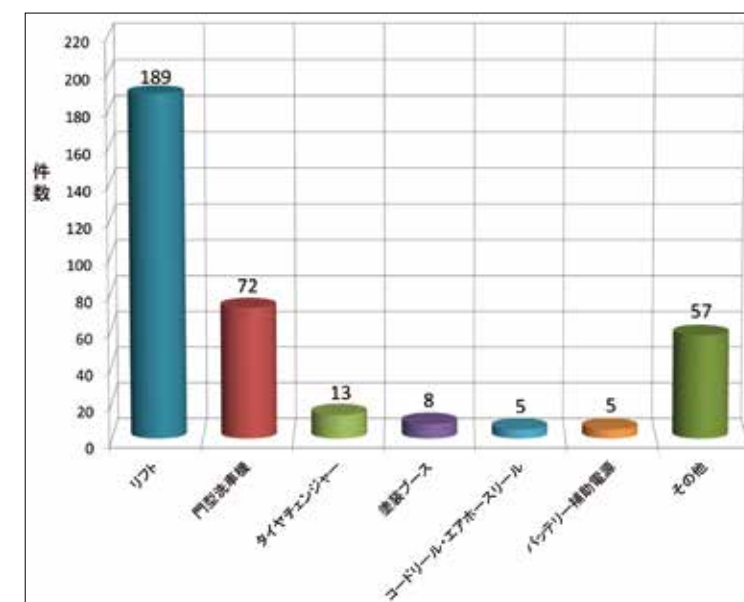
そして整備機器の事故も、今なお撲滅には至っていません。日本自動車機械工具協会によれば、2021年にはリフト事故が8件、その他機器の事故も7件発生しています。うち約半数は人身事故で、その中には痛ましい死亡事故も1件含まれています。

これら整備機器事故の大半は、取扱不良または点検不履行が主な原因となっています。ですから、作業前の始業前点検および1年に1回の定期点

検を確実に実施するとともに、新しい機器を導入した際や新たなメカニクを採用した際は正しい取扱方法の確認を徹底することが肝要です。

バンザイには、日本自動車機械工具協会のリフト点検資格などを保有するサービスエンジニアが多数在籍しております。整備機器の点検整備や取扱方法のご説明などを、ぜひご用命下さい。

今回は、今回も一部紹介しました各種法令改正を踏まえた、「道路運送車両法の相次ぐ改正をチャンスにできるお店作り」について考えてみたいと思います。



過去10年間の整備機器別事故件数(出典：日本自動車機械工具協会「リフト・整備機器事故集計表 過去10年間(平成24年~令和3年)の事故統計」)

進化する大型車サービスのニーズに 最新鋭の設備・環境で未来対応を実現

東京、埼玉、神奈川、千葉の1都3県をエリアとする日野ディーラー、南関東日野自動車株式会社では、このたび都内足立区の「足立支店」をリニューアルオープン。販売・サービス両面で今後の大型車市場に対応する最新の店舗・工場を完成しました。



国道4号線に面し、都内、埼玉方面にも好適な立地。



足立支店 支店長
相田 美隆 氏



工場北側の一般・車検整備ストール。



工場北側の12ストール。写真左側が車検整備、検査ラインを挟んで右側が一般整備ストール。

首都圏エリアを視野に充実のサービス体制

日本橋を基点に北へ本州を縦貫する国道4号線に面して、巨大なキャノピーに深紅のパラペットを配した足立支店の新店舗がひととき鮮やかに映えています。面積約4,500坪という広大な敷地の中央に店舗・サービス工場を配置し、周囲を一方通行とした安全最優先のレイアウトです。「従来の工場は車検、一般整備が別棟となっており、とくに一般整備棟には1柱リフトしかなく、設備の更新もかねてより懸案となっていました」と、整備部部長、内間透氏。本年4月に完成した新足立支店は東京・埼玉にまたがる同支店の市場エリアに将来的にも対応可能な規模を実現するとともに、大型車のあらゆるサービスに対応する設備機器をフルに導入した最新鋭工場となっています。

最新設備で幅広いサービスを提供

新工場は車検・一般整備、車体整備を合わせて全22ストールに多彩な省力化、効率化設備を導入。車検整備ストールには、キャタピラツインIIリフト2柱式を2基、3柱式を1基、4柱式を1基それぞれ導入。中・小型車専用の2ストールには2柱式キャタピラツインIIミニを前後に各2基レイアウトして通り抜けとしています。検査ラインは2レーンとして、うち1レーンは前方の水平土間を広く取り、エイミング作業にも対応を可能としています。一般整備には2柱ツインエース4基、3分割フロアリフト2基、2分割フロアリフト1基を導入、大型トラック、バスの幅広い整備に対応しています。また車体整備では板金作業に2ストール、2台同時作業が可能な2ルーム塗装ブースのほか屋内洗車場が1ストールとなっています。

技術力とICT活用で顧客サポートを提案

これら幅広いサービスに対応する設備機器のほか、安全で快適な作業環境づくりにも様々な配慮がなされています。ピットには万一の転落を防止するセーフティピットカバーを装備、



検査ラインは2レーン。
1レーンはエイミングのスペースを確保。



前後にキャタピラツインIIミニを配置した中・小型車ストール。

4柱式キャタピラツインIIはトレーラー、連節バスの整備も可能。

工場南側から見た通り抜け方式の検査ラインと車検整備ストール。



3分割、2分割のフロアリフトもすべて安全対策を実施。



一般整備ストール南側の3ストール。
キャタピラツインII2基、2分割フロアリフトを設備。



工場南側。左3ストールは一般整備。右側が板金ストール、塗装ブース、洗車場。



板金ストールには高所作業時の墜落防止システムを採用。

板金ストールでは高所作業時の墜落防止システムを完備するなど、作業の安全確保を図るほか、工場内は全てのストールに冷暖房装置を完備し、サービスの効率面とともに、四季を通じて快適な環境を実現されています。

オープン以来の猛暑もあって「すでにこうした設備環境がフルに活躍しています」と内間部長。メカニックにとって安全・快適な作業環境の確保は、サービスの品質向上のうえでまさに必須のものといえるでしょう。

一方、大型車においても急速な技術進化が進むなか、これら最新技術への対応も不可欠です。

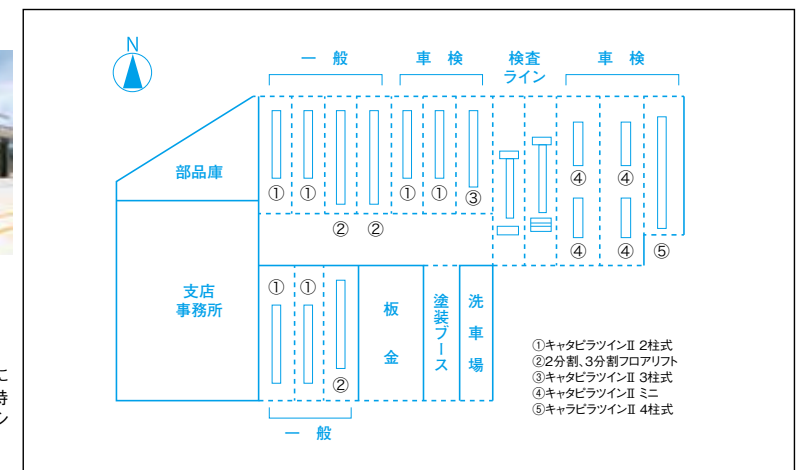
「大型車ユーザーにとって最大のニーズは安全で確実な運行です」と支店長、相田美隆氏。そのため万一の故障を未然に防ぐ診断・予防整備が最も大切になります。進化するICTサービス「HINO CONNECT」を活用し、「お客様の走行情報を踏まえたサービス提案がこれからのディーラーの役割です」とのこと。その意味でも新店舗・サービス体制をフルに生かした顧客サポートに期待が寄せられています。



顧客対応を担うサービスフロント。



ディーラーサービスとして特定整備にも対応。
構内は一方通行とし、十分な通路スペースを確保。



バンザイブースへご来場ありがとうございました！



ジャパントラックショー 2022

「SMARTサービスのご提案」

SMART=Sustainable mobility actions realize tomorrow.
(持続可能なモビリティアクションで未来を実現します。)



課題が山積み今後ますます深刻化する物流・整備業界

トラック・輸送業界の展示会「ジャパントラックショー2022」が5月12～14日の三日間、パシフィコ横浜で開催されました。

本来は隔年開催のところ、前回の2020年はコロナ禍で中止を余儀なくされました。そのため今回は四年ぶりの開催となりましたが、コロナ禍は未だに完全収束の兆しを見せておらず、今回は万全の感染予防策を施したうえで開催となりました。

また、少子高齢化や若者のクルマ離れに端を発するドライバー不足やメカニック不足、相次ぐ法改正にコンプライアンス厳格化の風潮、そしてカーボンニュートラル実現に向けた世界的なパラダイムシフトが、企業規模の大小を問わず大きな課題としてのしかかっており、しかも今後ますます深刻化することが確実視されています。

加えて、物流業界ではEC需要の急拡大に伴う積載効率の低下や2024年問題（働き方改革関連法によって2024年4月以降に自動車運転業務の年間時間外労働が上限960時間に制限されることに伴い発生する諸問題）、自動車アフターマーケットでは乗用車よりもむしろ商用車でこそ早く進化・普及が進んでいるCASE（コネクテッド、自動運転、シェアリング、電動化）技術への対応も、喫緊の課題となっています。

そうしたなか、自動車メーカー、架装メーカー、部品メーカー、機械工具商社など、計143社・520小間が出展。車両も

120台超が出品され、これら課題の様々な解決策が各出展社から提案されました。その結果、三日間の来場者は53,355人を数えるなど、大盛況のうちに無事閉幕しました。

バンザイは大型車整備の「SMARTサービス」をご提案

バンザイでは2022年のテーマとして、「SMARTサービスのご提案」を掲げています。

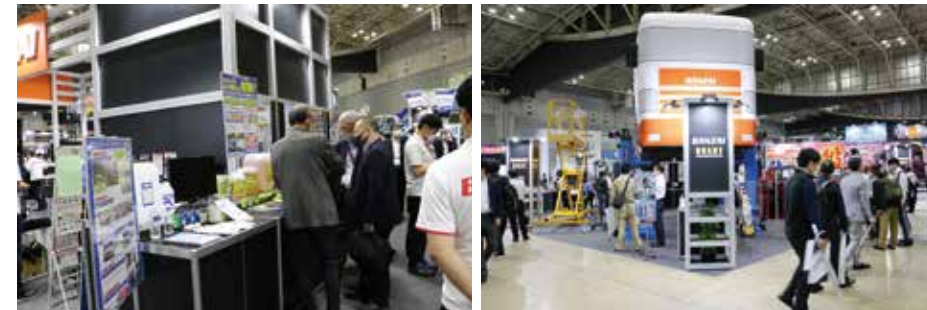
これは、いま目の前にある課題に素早く対応しつつ、これからも劇的な変化を続けていく車社会の30年先まで見据え備えるべく、お客様・社内・社会の三方にとって「スマート」=高品質で洗練された活発なサービスショップを実現する、というものです。そして、その柱として、「持続可能性の確立」「モビリティの進化への対応」「『人間中心』のビジネスモデル」という、3つの方向性を示しています。

ジャパントラックショー2022のバンザイブースでは、その具体的なソリューションとして、安全性と効率を同時に高める車検機器やエイミング用診断機器、リフト、美装商品（B-PRO）、空調システムなど、業界全体の課題解決にも寄与する様々な製品を出品し、ご来場いただいた多くの方から大きな反響を頂戴しました。

今後とも皆様のご期待に沿えますよう、社員一同全力で取り組んで参りますので、どうぞ末永くご愛顧くださいますよう、心よりお願い申し上げます。

持続可能性の確立

企業基盤の安定／社員、人材の安定



B-PROの消臭・除菌システム「オキシクリア」や「セラバリア」、メカニックの転落事故を防ぐ「ハーカレスリフト ペインター」や「セーフティピットカバー」などが特に注目を集めました。

新型コロナウイルスの感染拡大防止策は、お客様はもちろん従業員にとっても今なお必要不可欠です。また、作業中の事故や怪我、病気を防ぐことは、より大きく重いものを取り扱う大型車整備ではますます重要になります。そうした観点から、

モビリティの進化への対応

整備機器の更新、刷新／技術力、人材力強化



実に、効率良く対応し、「トータルエイミング」を実現するツールとして、ワイヤレススキャンツール「MST-nano」や、大型車用ホイールアライメントテスター「カムアライナー」などを出品し、来場者へご提案しました。

CASE技術の進化・普及に端を発する特定整備制度やOBD点検・OBD検査の導入、交通事故被害軽減・減少のための安全装備に関する保安基準強化など、相次ぐ法令改正はサービスショップを待ってはくれません。これらにいち早く、確

「人間中心」のビジネスモデル

安心して働ける職場環境づくり／職制、社内チームの見直し／賃金システムの見直し



車検業務を自動化・効率化しコンプライアンスを強化する「車高測定装置」「車両画像管理システム フォトセーバー」のほか、ホイールナット締付トルクの精度を高める「パワートルクセッター」などをご紹介しました。

車検に関わる法令違反や点検整備の不備など、自動車サービスにおけるコンプライアンスのあり方がクローズアップされており、これらの問題の背景にはエンジニアへの過大な負担があるとも指摘されています。会場では、大型車の車

SHOW ROOM

【パンタグラフ式リフト】イーグルアドバンス リフト ALY-F40A

革新の能力4tonアーム式リフト! 常識を覆す強靱フレームボディ!!

- リフト本体厚さ580mmの為、多層階にもアーム式リフトが設置可能。
- リフトアップ時のリフト間距離は広く、EVのバッテリー脱着も容易に行えます。
- タイヤ下回り、エンジン下回りスペースが広く使え、作業効率が向上。
- 前後対称の設計で、前進、後退どちらからでも進入が可能です。
- 調光式LED照明を標準装備、アームのセットや車両下回りの作業性がアップ。
- 制御盤にはタッチパネルを標準搭載、リフトの異常や定期点検の案内表示など、高水準のアフターサポートを可能にします。



リフトアップ時のリフト間距離は十分確保され、重整備など車両下部での作業も楽に行えます。



日本・米国・欧州・他
特許取得済

仕様

型 式	ALY-F40A	
能 力 (kg)	4,000	
対 象 車 種	軽～普通乗用車、小型トラック(除くロング)	
揚 程 (mm)	1,800	
ア ー ム 長 さ (mm)	650～1,250	
本 体 寸 法 (mm)	1,970(L) × 3,470(W) × H580(H)	
エ ア ー 圧 (MPa)	0.4～1.0	
安 全 装 置	降下止め装置、ヒューズ弁、過負荷防止装置、油圧力異常検出	
電 源 (V,kW)	AC200 三相 2.2	
標 準 付 属	低床クイック受金 (FQL101)	

SHOW ROOM

【整備用スキャンツール】MST-nano MST-NANO

OBD車検の時代へ、 整備ビジネスを変えるフラッグシップモデル登場!

MSTシリーズ初の無線接続。
Windows 10搭載タブレットPC。



国産乗用車、
国産トラック・バス、
輸入車合わせて
23メーカーに
標準対応

<タブレットPC>

<VCI=MST-nano(I/F)>

- Windows 10 搭載のタブレットPCを標準付属し、診断用ソフトで車両診断が行えます。
- 今後必要となるOBD 車検用ソフトを、タブレットPCに直接インストールできる予定です。
- タブレットPCは、耐衝撃・防塵・防滴・耐寒性 (IP65 準拠)、整備環境下での使用に最適です。
- タブレットPCとVCIは無線で通信するため、ケーブルを気にせず車両診断が可能です。
- VCIは、LEDライト及び外し忘れ防止ブザーを搭載、暗い車内でも視認性の良いオリジナルデザインを採用。
- 車両データアップデートが3年間/スキャンツールホットラインが1年間無償でご利用頂けます。

■タブレット仕様



OS	Windows10 LTSP
防塵防滴	IP65準拠
耐落下衝撃	MIL-STD-810G準拠 ※ 1.2m落下(非動作時)
画面サイズ	10.1インチ
外形寸法	268×183.6×13.3mm
重量	795g

■VCI仕様



通信方法 (VCI⇄タブレット)	Bluetooth
外形寸法	110×51×31mm
電源	8～32V
重量	103g

SHOW ROOM

【非接触式アライメントテスター】タッチレス BB-TCLS

ホイールクランプ、ターゲットの取付けが不要、
非接触式でアライメント計測が高精度・スムーズに!

- ホイールにクランプやターゲットを取付けることなく、ホイールアライメントの計測が行えます。
- モニターに表示される作業指示に従って、スムーズに測定ができます。
- 専用のアライメントリフトとセットで使用することで車両の調整作業も効率的に行えます。



※写真のアライメントリフトは製品に含まれません。

仕様

型	式	BB-TCLS
センサー	寸法 (mm)	880(W)× 310(D)× 640(H)
	重量 (kg)	約 21/個
キャビネット	寸法 (mm)	880(W)× 770(D)× 1,520(H)
	重量 (kg)	約 110
電源 (V)		AC200・単相 (センサー用)、AC100・単相 (キャビネット用)
測定項目		トー (トータル・個別)、キャンバー、キャスター キングピン、T.O.O.T、スラストアングル

【ドライブオン/フリーホイールリフト】フラットワークステージX 4t WSX-F240AZGL-SL-T

非接触「タッチレス」対応、
アライメント測定・調整がより容易に行えます!

- タイヤ位置に合わせてカメラユニットが移動できる専用テーブルを搭載、正確なアライメント測定を行うことができます。
- 非接触式アライメントテスター「タッチレス」と組み合わせ使用することで、アライメント測定後に容易に調整作業が行えます。
- ランウェイ内側にLED照明を標準搭載、調整作業時に車両下部を明るく照らし作業効率を向上します。



※写真は「タッチレス」センサー、ターンテーブルを装着しています。

仕様

型	式	WSX-F240AZGL-SL-T
メインリフト能力 (kg)		4,000
フリーホイールリフト能力 (kg)		4,000
メインリフト揚程 (mm)		1,650
フリーホイールリフト能力 (mm)		350
本体寸法 (mm)		4,970(L)× 2,640(W)× H580(H)
アライメント対象 W/B (mm)		2,000~ 3,800
電源 (V)		AC200・三相 2.2kW
エア圧 (MPa)		0.7~ 1.0

SHOW ROOM

【マットクリーナー】マットクリーナー MC-6001D-S2

マットの巻き込みを防止、
多様化するマットの洗浄サービスに対応!

- マットの多様化により発生するマット巻き込みを防止!
- ブラシガイドに櫛状のプレートを追加、マット洗浄をスムーズに!

巻き込み防止
ブラシガイドを追加



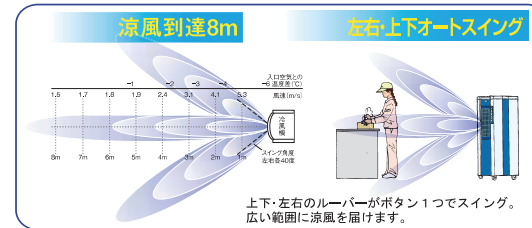
仕様

型	式	MC-6001D-S2
対象マット寸法 (mm)		幅: 700、厚さ: 3~ 25
ブラシ寸法 (mm)		幅: 700、直径: 108
駆動モーター (V)		AC100・単相、250W
回転速度 (rpm)		5.6(50Hz)、6.7(60Hz)
給水量 (L/min)		10 以上
本体寸法 (mm)		1,030(W)× 720(D)× 1,250(H)
重量 (kg)		約 84

【気化式冷風機】気化式冷風機 RKF406G

周囲温度よりマイナス5℃の涼風。
水の気化熱を利用したエコな冷風機。

- サービス工場、ガソリンスタンドでの熱中症対策に!
- 涼風到達8m、左右上下オートスイングで広い範囲に冷風を送ります。
- 給水、メンテナンスもらくらく、簡単です。
- 電気機器を地上60cm以上として消防法関連法規に適合。



仕様

型	式	RKF406G	
電源周波数		50Hz	60Hz
冷房能力 (kW)		3.9	4.4
風量 (m ³ /min)		105 (最大)	116 (最大)
水蒸発量 (L/h)		5.0	5.6
有効貯水量 (L)		50	
電源 (V)		AC100	
本体寸法		550(W)× 563(D)× 1,367(H)	



ガソリンスタンドへの設置も可能です!

整備業界をリードする研究組織「MSC 経営戦略会議」とボランティアチェーンの「感動夢工場」が合併

MSC 感動夢工場が設立総会を開催

バンザイが主宰してきた自動車整備事業者の研究団体、「MSC 経営戦略会議」と自動車整備のボランティアチェーン、「感動夢工場」の両組織は、4月1日（金）、正式に合併を行い、「MSC 感動夢工場」の設立とあいなりました。これに伴い、今般5月24日（火）、バンザイ本社ビルにて「MSC 感動夢工場」の設立総会を開催、会員企業28社による、新たなスタートをきりました。

100年に1度といわれる自動車産業の大変革にある中、「MSC 感動夢工場」は全国組織の利点をフルに活かし、年間3回の研究会などを通じた情報のインプット・アウトプットなどで、引き続きバンザイでは会員企業のバックアップを行ってまいります。

MSC 経営戦略会議の足跡

宮田式車検システムの効率的活用をテーマに自動車整備の在り方を問い続けてきた研究組織 MSC 経営戦略会議は、1978年（昭和53年）に発足、初回車検3年化問題をはじめ、44年にわたる整備研究活動を行ってきました。近年は会員企業の事業承継を大きなテーマとし、同会の研修などを通じて、着々と世代交代を果たすなど、業界の課題をクリアしてきました。



第10回研究会で表彰を行う
亀崎茂議長（当時）



2019年末には初の海外視察として上海アウトメカニカを見学。

感動夢工場の足跡

感動夢工場は2002年（平成14年）に発足した弊社発のボランティアチェーンです。車検、リペア、ホイールアライメント、オイル、エコ診断という5つの工房シリーズで構成する全国チェーンで、工房の分科会での情報交換と、年に3回の全体研究会の実施をはじめ、バンザイのバックアップ体制などで、整備業界の変革に対応してきました。



第8回合同研修会（2005年9月）では、愛・地球博を見学。



2018年、MSCと感動夢工場の合同研究会の様子。

MSC 感動夢工場 会員企業

有限会社道東車輻工業（北海道）

江別協同自動車株式会社（北海道）

株式会社リューツー（北海道）

有限会社小松自動車工業（宮城県）

有限会社中央タクシー（宮城県）

株式会社七洋 ナナヨウ車検センター（青森県）

株式会社富田オートサービス（福島県）

株式会社堀越モータース（群馬県）

有限会社根岸自動車（埼玉県）

有限会社雲然自動車工場（埼玉県）

株式会社サンエスオート407（埼玉県）

株式会社TAS コーポレーション（茨城県）

有限会社深沢自動車工業（栃木県）

山市自動車株式会社（千葉県）

株式会社小見川自動車整備センター（千葉県）

有限会社三平商会（千葉県）

日新エネルギー株式会社（栃木県）

（資）小林自動車工場（新潟県）

株式会社サイケイ（埼玉県）

岡本車輛株式会社（東京都）

平田自動車工業株式会社（神奈川県）

ピットワン・Ogawa（愛知県）

日の丸興業株式会社（岐阜県）

株式会社ホンダカーズ三重南（三重県）

有限会社タッカー（福井県）

株式会社日光モーター（福井県）

株式会社大嶋カーサービス（京都府）

ダイハツ東部（熊本県）

変革期に対応する組織で業界をリード

就任

初代会長に山崎 太氏

MSC 感動夢工場の初代会長には MSC 経営戦略会議の7代目議長、山崎太氏（山市自動車工業代表取締役）が就任されました。MSC 経営戦略会議は発足時メンバーの高齢化が進む中、2010年頃より、同会議は事業承継が新たなテーマとなりました。様々な研修などのステップを踏み、会員各社は順調に事業承継を果たす中、山崎議長はその中心メンバーとして象徴的な役割を担ってきました。

今回、初代会長就任で挨拶に立った山崎会長は「変わらない安心ではなく、変わることに安心を求め、皆様の知恵を結集して変革期を乗り越えていきたい」と抱負を述べました。なお、設立総会での議案審議では山崎会長が議長として選任され、滞りなく議案を採決しました。



初代会長に就任した山崎 太氏

ご挨拶

新しい時代をリードする存在として期待



株式会社バンザイ 代表取締役社長 柳田 昌宏

続いて、登壇したバンザイの柳田昌宏社長は、MSC 感動夢工場設立の祝辞の中で、かつて両会の事務局として数々の研究会に参加した思い出を交えつつ、「2023年の1月からは車検証のICカード化が運用され、更に2024年からスタートするOBD車検などの、新しい基準への対応が求められる中、MSC 感動夢工場が、新しい時代の整備業界をリードしていただけるものと大変期待しております」と述べました。その上で、「引き続き MSC 感動夢工場の活動を、強力にバックアップしていきながら、皆さま方と共に、これからの新しい自動車整備業界を、乗り切っていく所存でございます」と決意を新たにしました。

記念講演

整備業コンサルタントの山本覚氏（㈱ティオ）は「新時代、整備経営はどうあるべきか」と題する記念講演を行いました。



株式会社ティオ 代表取締役 山本 覚氏

新役員



議案の可決により新役員が決定。左から、若杉利男氏（顧問・相談役）、小川慶一氏（理事）、山崎太氏（会長）、高間専逸氏（副会長）、平田弘行氏（監事）、佐藤尚武氏（理事）、岡本慎一郎氏（理事）

バンザイ 定時株主総会およびプレス懇談会を開催

バンザイではさる6月28日、バンザイ本社2階の第2会議室において第96期定時株主総会ならびに取締役会を開催しました。またその後、この2年間コロナ禍で開催が見送られていた業界主要メディアとのプレス懇談会を開催しました。

■第96期定時株主総会

株主総会では第96期の事業報告をはじめとする第1号から第4号までの議案がすべて議案通り承認され、滞りなく終了しました。またその後の取締役会において各取締役の委嘱業務を決定しました。

事業報告の中で、長期化する半導体不足やコロナ禍によるサプライチェーンの混乱のなかで、サービス業界においては拠点計画の再開、設備更新の動きも見られ、第96期の総売上高は322億1千2百万円と2000年3月期(第74期)以降で最高の実績と報告されました。

また今後の事業計画の中で、SDGsやESGへの取り組みを推進し、(公社)日本ユネスコ協会や(公財)交通遺児育英会などへの支援活動などを通じて環境や社会の課題解決に寄与していくことが述べられています。本業においては、脱炭素社会の実現、デジタルシフトの潮流、自動車の技術革新など、お客様や社会のニーズが高度化、多様化するなか、市場と顧客ニーズに合致した営業活動と付加価値の高い商品開発に加え、当社の強みであるサービス体制の強化と社員の人材育成を図るとともに、業務効率化による収益力向上と企業価値向上に努めていく方針です。

■2022年プレス懇談会



挨拶を述べる柳田社長

3年ぶりの対面による開催となったプレス懇談会では、10社11名の媒体関係者の出席のもと、まずバンザイ柳田社長の挨拶からスタートしました。次いで金澤管理本部長による第96期の事業報告が行われ、さらに山本営業統括本部長による営業本部基本戦略の説明、小池営業本部長による新商品の紹介が行われました。

懇談会は後半、質疑応答に移り、各出席者から様々な質問が寄せられ、それぞれの項目について柳田社長、山本統括本部長、小池営業本部長により丁寧な説明が行われました。懇談会はこれらバンザイからのプレス発表から、業界・社会との媒介となる各メディアとの情報交流を通じて、午後4時半に閉会しました。バンザイでは今後とも各メディアを通じてサービス業界の皆様への情報発信を行ってまいります。



主要メディア関係者10社11名の参加により開催



事業報告を行う金澤管理本部長



説明に対応する(右)山本統括本部長、(左)小池営業本部長

BANZAI GUIDE

役員のご紹介

バンザイでは令和4年6月28日に開催いたしました、第96期定時株主総会後の取締役会において、下記の通り各取締役・委嘱業務を決定し、就任いたしました。今後とも皆様のご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます

代表取締役社長		柳田昌宏
取締役	(営業本部 営業統括本部長)	山本正明
取締役	(管理本部 管理本部長) (経理部長)	金澤文男
取締役	(営業本部 営業本部長)	小池則之
取締役	(管理本部 管理副本部長) (総務部長兼システム部長)	山田卓志
取締役	(海外販売部長)	木村亨(重任)
取締役	(営業本部 営業副本部長)	荒木龍紀(新任)
常勤監査役		飛田敏行
監査役		川田剛
監査役		岩知道真吾

尚、本株主総会をもって退任しました取締役 浅沼芳政氏は当社相談役に就任しました。

編集後記



先日、とある大型の音楽イベントへ参加を致しました。主催者側からは昨今では当たり前となった感染症予防対策の徹底が呼びかけられ、参加者はそれを当たり前のように順守し、白熱した中でも声を出さずしっかりとマスクをして楽しむ姿がありました。延期となって久しぶりに実現した音楽イベントに感動しただけでなく、予防対策の決まりをしっかりと守って行動できるファン・日本人の行動を誇らしくも感じました。どんな時でもマスクを外しにくく、ただでさえ息苦しく暑く感じる中、今年は6月のうちに各地で梅雨明けを迎え、6月下旬には早速猛暑日の連続日数記録を

更新しました。昨今、政府からは熱中症予防の観点から『屋外で身体的距離を取って会話も無い状況』等ではマスクを外しても良いとの見解が発表されましたが、今まで行ってきた対策を簡単に辞められるかどうかは疑問です。

弊社では整備工場様をはじめ、お客様の作業環境を快適にする為の冷風機器や効率的な換気を行う機器も取り扱っております。お客様の今夏が快適なものとなるようお手伝いをさせていただきますので、ぜひともご照会の程、宜しくお願致します。

<米川>